

令和3年度 調布市立第八中学校 学校経営計画（学校長 佐藤 政彦）

学校の教育目標	
○自ら考え行動する生徒 ○思いやりのある心豊かな生徒 ○心身ともにたくましい生徒	
目指す学校像(ビジョン) 例) 学校像, 教員像, 児童・生徒像	
『生徒一人一人が輝き、さわやかで気持ちのいい学校』を目指して、次の生徒像を設定する。 ○「道徳的実践力」の育成・・・人権教育及び道徳教育を重視し、思いやりがあり心豊かな生徒を育成する。 ○「主体的課題解決力」の育成・・・主体的・対話的で深い学びを通して、自ら考え行動できる生徒を育成する。 ○「創造的行動力」の育成・・・学校行事・部活動・キャリア教育等を通して、心身ともにたくましい生徒を育成する。	
ビジョンの設定理由 (本校の現状と課題)	○現状／・素直で素朴さを感じさせる生徒が多く、生活面での乱れはなく、学校生活は落ち着いている。学区外からの生徒が多く、全体の4割近くを占めている。 ・保護者は、学校に対して協力的で、PTA活動も活発である。また、地域学校協働本部の活動がコーディネーターを中心に活発に行われている。特に、土曜学習部では、指導内容や地域人材が充実している。 ○課題／・魅力ある学校づくり（授業力の向上、確かな学力の定着、配慮を要する生徒への個別支援） ・インクルーシブ教育の推進（研究推進校2年次における取組、校内通級教室拠点校としての取組、指導スキルの向上） ・地域と連携した学校づくり（地域学校協働本部の活用と連携、土曜学習部の運営、各種検定の実施）
中期的な経営目標	
① 生活指導・進路指導・安全指導の充実を図り、豊かな心を持ち、自他を尊重し道徳的な行動ができる力を養う。 ② 学習意欲を喚起し、確かな学力の定着を図り、主体的に探究し課題を解決する力を養う。 ③ 特別支援教育や食育等の充実を図り、心身ともに健康で、持続可能な社会づくりに貢献できる力を養う。 ④ 保護者・地域との連携を深め、社会に開かれた教育課程の実現を目指す。 ⑤ 地域人材を活用した学習支援等により、地域・保護者が一丸となった学校づくりを目指す。 ⑥ 学校行事等の体験的な活動を通して、創造力を育み、自己有用感を育む。	

調布市立学校における共通した領域 <短期的な経営目標>		
1 豊かな心(徳)	2 確かな学力(知)	3 健やかな体(体)
(1) 取組目標 (具体的方策) ①基本的な生活習慣を定着させるとともに、関係機関等と連携し、いじめ防止の徹底を図る。いじめ対策委員会の実施(毎週)、生活アンケートの実施(毎月)。SC面談(1年1学期)実施。 ②発達段階に応じ、系統的・計画的なキャリア教育を推進する。1年では職業調べ、2年ではゲストティーチャー講話、3年では進路選択について指導。	(1) 取組目標 (具体的方策) ①授業規律を確立し、基礎的・基本的事項の確実な定着を図る。定期考査前自習教室(年8回)、土曜学習部(年20回)、朝読書(毎日10分)、各種検定実施。 ②教員の指導力の向上を図り、生徒一人一人の学習意欲を向上させる。研修会、授業評価アンケート(年2回)、保護者授業アンケート(通年)の実施。	(1) 取組目標 (具体的方策) ①特別支援教育の充実を図るとともに、一校一取組運動や部活動等により、体力の向上を図る。特別支援校内委員会の実施(毎週)、学校連携観戦(8月)、部活動加入率95%以上。 ②薬物乱用防止教育、食育等を充実させ、健康増進、食物アレルギー事故防止の意識啓発を図る。喫煙・薬物乱用防止教室(年1回)、学校保健委員会(年2回)、アレルギー研修(年3回)実施。
(2) 成果目標 (数値目標) ①「毎日学校へ行くのは楽しい」と肯定的な回答85%を目指す。 「悩みや相談にのってくれる先生やカウンセラーがいる」と肯定的な回答85%を目指す。 ②「子どもは、学校での人間関係が上手に出来ている」と肯定的な回答90%を目指す。(P)	(2) 成果目標 (数値目標) ①「毎日の学校での勉強で基礎的な学力を身に付けている」と肯定的な回答90%を目指す。 「子供は学校で基礎的な学力を身に付けている」と肯定的な回答80%を目指す。(P) ②「先生方は分かりやすい授業をしてくれている」と肯定的な回答90%を目指す。(P)	(2) 成果目標 (数値目標) ①「体育の授業や部活動で基礎的な体力を身に付けている」と肯定的な回答85%を目指す。 「積極的に部活動に参加している」と肯定的な回答90%を目指す。 ②「生徒の健康に配慮し病気や怪我等に対応してくれる」と肯定的な回答95%を目指す。(P)
学校の特色を生かした領域 <短期的な経営目標>		
4 保護者・地域との連携	5 特色ある教育活動①	6 特色ある教育活動②
(1) 取組目標 (具体的方策) 保護者、地域の小学校、地域の健全育成団体等との連携をより一層深め、学校への協力体制を構築する。健全地区委員会、まちづくり協議会(各月1回)、みどりんキャンプへの参加。	(1) 取組目標 (具体的方策) 地域学校協働本部との連携・協力を通して、ボランティアによる学習支援や学習教室を実施する。土曜学習部(年20回)の実施。	(1) 取組目標 (具体的方策) 学校行事等のねらいを明確にし、一層の充実を図り、生徒一人一人が活躍できる場面を与える。体育祭、修学旅行、合唱コンクール、学習発表会・作品展、移動教室の実施。
(2) 成果目標 (数値目標) 「学校は便りで学校や子どもたちの様子を伝えている」と肯定的な回答95%を目指す。(P)	(2) 成果目標 (数値目標) 「子どもは、家庭での学習習慣が身に付いている」と肯定的な回答70%を目指す。(P)	(2) 成果目標 (数値目標) 「学校行事に積極的に参加している」と肯定的な回答85%を目指す。

成果目標の(P)は、保護者アンケートの目標値とする。

人材育成・組織運営

○主幹教諭・主任教諭を核とした組織的な若手育成

1・2年次教員7名に対し、主幹教諭・主任教諭をそれぞれに指導教官として、3人一組のチームを編成し、OJTを推進する。
主幹には、研修報告の点検、指導案作成支援、自己申告書作成補助、主任には、週案の点検、指導案作成支援等を担当させる。

○分掌主任の意識の向上

運営委員会・主任会で、学校課題の共有と解決策の検討を行う。各担当からの起案は、必ず分掌・学年主任を介す。

○地域と連携した人材育成

地域の人材と連携・協力することで、学校と地域とが協働して自校の教育活動を向上させる手立てを学ばせる。